

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	重症児デイサービスななほし（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	令和6年 10月 1日		～ 令和6年 10月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	令和6年 10月 25日		～ 令和6年 10月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年 月 日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられる。	「こどもの意思を尊重する」という土台の部分意識しながら関わること。こどもに寄り添い、こどもが何を必要としているのかを考え、安心・安全に過ごせる居場所となること。アセスメントで得た情報を職員間で共有し、具体的な支援の方法を共通理解しておくこと。家庭や専門機関と連携しながら多角的な視点からアセスメントを行い、それに基づいて支援の方法を考え取り組むことです。	社内外の研修や勉強会に参加して、専門知識を身につけます。また、外部機関との連携により、客観的で専門性の高い意見を聞き、そこに職員それぞれの持ち味が加わることで、一人一人のこどもに合った支援ができます。
2	こどもの状況を保護者様と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができている。	面談や送迎時、保護者共有ノート、情報管理システムを使用して情報共有を行う。また、関係機関と連携して、個々の病状や医療的ケア、発達に関する情報共有を行う。	外部機関との連携をさらに深め、専門的な意見交換ができるようにする。
3	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に発信している。	活動ごとの投稿、月ごとにまとめたものやストーリーで最新情報を流す。写真だけでは伝わらない場合は、動画の共有を行う。	季節ごとのねらいや内容を年間スケジュールに沿って提示。定期的に保護者会・参観日を設けそれぞれの取り組みを紹介する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がある。	安全に医療的ケアができる環境の確保。例えば、痰吸引が必要なこどもの場合は、周囲の子どもへの事情説明、安全にケアできる環境を確保する必要があります。	日頃から事業所の取り組みを地域に広め、地域交流の場を開催する等、事業所の理解を深めていただけるようにする。近隣保育園や老人ホームと交流ができるよう相談していく。
2			
3			